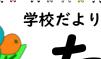
鮮明な画像はホームページでご覧ください。http://www.nagasaki-city.ed.jp/tameshi-e/



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! 〜地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども〜」

O楽しく めあてをもって しっかり学ぶ ○正しく めあてを しっかり守る ○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える





ためし

令和7年9月19日号 文責 上久木田 雄二

あいまいの難しさ

地域学校保健委員会を開催しました。 多くの保護者の皆様に参加していただき ありがとうございます。

私なりの学びを共有したいと思います。もし違った考えをお持ちの方はぜひ聞かせてください。

会のおわりの言葉で話しましたが、一番印象に残ったことは、

あいまいさの二つの側面の存在

です。

講演の内容の中心は「境界線(バウン ダリー」でした。境界線とは、

YESとNOを分ける線 どこで線を引くか自分で決めていい 相手によって線引きを変えていい その時によって変えていい

違いを認め、対等な関係を築くもとになる考え方だそうです。

この「あいまい」な境界線を認める考え方を皆さんはどのくらい許容できますか。

例えば、学校生活の中の友だち関係に おいて、次のことが起こったとします。 AさんがBさんの遊びの誘いに「YES」 と返事した次の日、Cさんの誘いにAさ んが「NO」と言うのです。

みなさんが、Cさんの親なら、「Aさんから仲間外しにされた」と思いませんか。今なら「いじめ」と認定されかねないのです。

しかし、その境界線を認めなければい けないのです。

子どもたちは、このリアルで対面の関係の中にある「あいまいさ」を認めることは大変苦手です。

一方、ネットやSNSほど「あいまい」な世界はありません。何が現実で何が本当なのかを吟味する力が求められるのは、この「あいまいさ」が原因です。

リアルな「あいまいさ」は認められないのに、SNS世界の「いいね!」に代表される「あいまいさ」は簡単に認め、受け入れるのです。このことを講師は「錯覚」という言葉で注意喚起をしていました。

現実の世界で必要な力は、リアルの中でしか鍛えることができません。リアルな「あいまいさ」を認める経験は、リアルな「あいまいさ」にぶつかり、跳ね返される経験が必要なときがあるということです。

HPはこちら





